

第2回県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会が出された主な意見

1. **名古屋大学附属中学の入試**では、グループでテーマに沿って相談、発表を評価する内容であると聞いた。ぜひ**参考にしてもらえれば**と思う。
2. 議論は進んだが、懸念はまだある。**チェンジメーカー育成の考えは内進生にだけ適用されるとエリート教育になってしまう**のではないかと懸念している。
3. SSHでは理数系の探究活動ばかりに見えてしまうが、**理数系以外の探究活動にも大切にして欲しい**。本県で導入する第一次導入校で成果があがったかどうかは大学進学実績ではないはず。
4. **第二次以降の導入候補校の具体的な学校が分からないので、受験の過熱化や教員配置について懸念が残っている**。
5. 私学の中では、県立の中高一貫教育の導入を評価する声もあるが、受験の過熱化を心配する声もある。**公立私立分け隔てなく、内容の周知を行ってほしい**。今回、**2クラス分高校から入る枠が狭まるが、その分の学級数を高校で増加しないでもらいたい**。こうしたことをまた要望に伺いたい。
6. 探究的な学びは中高一貫校だけでなく、全ての学校でやるべきものである。**全ての学校で探究的な学びができるように力のある教員を育成し配置してもらいたい**。
7. 学びの選択肢が増えるのは良いが、**小中では教員が足りていない**。開校までに、**ぜひ教員不足に対応してもらいたい**。
8. **中高一貫校ができることで地元の小中の教員の負担が増えないように加配や定数増をして欲しい**。**第二次導入候補校は、進学校だけでなく地域課題に対応する学校もしっかり検討して欲しい**。
9. **中高一貫校の指導計画や教員配置については、開校前にきちんと決めてもらいたい**。
10. 目的やねらいは良いが、3年間の具体的な中身がまだ決まっていないので教員、子どもの不安は大きい。**ワーキンググループで今後実務的な部分を並行して決めて欲しい**。**愛知に中高一貫をどう根付かせるのか全体の見通しが欲しい**。
11. 具体的な内容がまだ決まっていないので、**もう少しゆっくりと検討**したらどうか。
12. **中高一貫校の趣旨は新しい教育の在り方として良いものだと思う**。候補校として今後も地元としっかり協議をしていきたい。

※委員ごと発言順に整理